

堀川再生のための連携プロジェクト第4グループ第5回会合 議事録

1. 全体概要

1)日時 平成18年9月23日(土)

(1)車上視察 10:30~15:00, 七里の渡し右岸葦原→藤前干潟→松重閘門

(2)ワークショップ 15:20~16:20 場所:名古屋工業大学, 24号館116号室

2. 車上視察

1)参加者:(敬称略)

[国土交通省] 太田 均, [堀川LC] 徳永東三, [鯉城大学] 佐伯正, 堀江 一, 杉浦弘造,
[名古屋市] 加藤丈晴, [名古屋市立大学] 及川 理 [名工大] 和久昭正, 兼松健治, 小池隆之,
篠田藍子, 原 陽平, 高橋慶彦, 吉田尚, (以上14名)

2)バスは、国交省庄内川事務所管轄の23人乗りマイクロバスを使用。

3)スケジュール

10:45 JR熱田駅前集合出発

11:00~11:30 七里の渡し右岸葦原視察
大瀬子橋付近で下車し、徒歩で右岸へ

12:00~13:30 **藤前干潟視察(12:11分干潮時間帯に合わせて観察)**
・名古屋トラック・ステーションにて昼食
・干潟まで200m徒歩にて移動

14:00~14:30 松重閘門視察

15:00~16:30 名工大にて検討会(24号館116号室)

(バスは、第4班メンバー下車後、庄内川事務所へ)

3. ワークショップ

1)メンバー [堀川LC] 徳永東三, [国土交通省] 太田 均, [鯉城大学] 佐伯正,
[名古屋市] 加藤丈晴, [名古屋市立大学] 及川 理 [名工大] 和久昭正, 兼松健治, 篠田藍子,
原 陽平, 高橋慶彦, 吉田尚 (書記),

2)討議内容

(1)9月3日の中間報告会の報告

①各班の活動報告と質疑応答が報告された。

②今年度の成果目標:第4グループは、環境教育パンフレットを作成する。完成目標は、
年明け早々とする。対象は、小学生高学年レベルとする。

(2)今年度の成果目標に向けての討議

和久:今日の議題は、今年度の成果予定が「**パンフレットの作成**」であるので、**どういう内容
のものを、どのような工程で作るか**を議論したい。

元になるのは**名古屋市の「堀川のあらまし」**である。これは、大人向けの内容なので子供向けにアレンジしたものを作成する。

加藤：①パンフレットの構成案として、**裏表で8画面案**を提案する。堀川のあらましと同じ形式である。

②コンテンツ（内容）としては、**水質浄化政策や、魚などの生物の生息地などの環境的なスポットの紹介**をマップにまとめたらいと思う。

③どんな構成にするのか、各自それぞれが、ここを作りたい、というような意見を聞かせていただきたい。

④国土交通省が作った中部の河川という本からの写真を利用することも可能だ。他にも名古屋市で持っているデータは提供する。皆さんの重荷にならない程度に検討していただきたい。

和久：**8画面で内容**を決めていく。（異論なし）

及川：①8画面にすると生物や、詳細な地図を入れるスペースはありますか？

②子供だと水質などの内容よりは、**親しみやすい生き物を中心とした内容の方がよい**と思う。

加藤：私の立場では大人も利用できるものを作りたい。

及川：水質は体感できるが、生物は実際に見てみないと分からないから生物を重要視したい。水質は大雑把でいいのではないかと思う。

徳永：①今までの検討の中から小学校高学年向けの環境学習の教材を作るということと理解する。

②ただし、環境でだけ話を進めていくとむずかしい。**前段に堀川自体の説明、現状の問題が、理解できる教材にしていく必要があるのではないか。**したがって、**難しい水質の話より、ゴミ、においや生物などの五感で感じる指標が効果的**だと思う。

③さらには**時系列的に過去、現在、未来へと導いてこれからの堀川のあり方まで、表現できたらよりよい。**今までのパンフレットとは違う特徴のある内容のものを作りたい。

加藤：私の発想では、名古屋市の堀川パンフレットの「環境バージョン」を作ろうとしていたが、皆さんの目指すものは学習教材ということが分かりました。なお、堀川に関する教育資料としては、網羅的な内容のCD-ROMがある。

及川：①**小学校高学年に絞った場合は、鳥・魚・生物がいる環境というのは水質を表す指標にもなる。**一般的な生物指標の生物の分類ではないもので、環境指標の観点からまとめたらい。

徳永：どこに焦点を当てるか？が大切だ。加藤さんは6部作の一環とやろうとしているが、皆さんは小学生向けのパンフレットを作りたいという考え方のようだ。

佐伯：最初から、環境という問題を網羅した子供向けにアレンジしたパンフレットを作りたいという話だったと思う。

加藤：子供向けに新たに作るとしたら歴史やスポットや生物や、いろいろなものを簡単な説明文で書いていく必要がある。

佐伯：小学校ではどのようなことを学んでいるのでしょうか。

加藤：総合学習でやっているところもある。しかし、力の入れ方には、格差がある。

佐伯：低学年であると及川さんの言うような内容でいいと思うが、高学年ならば十分勉強しているのである程度高度な内容でも消化できるのではないか？

和久：**高度な内容でも、表現を平易にすることで、大人・子供のどちらにも対応可能なパンフレットが作成できるのではないか**と思う。

佐伯：環境から見た生物、という見方で編集したらよい。例えば、堀川の環境がこうだからこういう生物が生きられるという話にしていけば良いのではないか？

篠田：観光に行ったときにこういった MAP を利用するが、「**遊び心のあるもの**」の方が**見て楽しいし、そこに行ってみたい気持ちになる**。堅いものだけでなく崩したもののほうが多くの世代に受けるのではないか？

及川：堅いものでも切り口を変えて、親しみやすいアプローチをしていくことが重要だと思う。

佐伯：**例えば、堀川のきれいな方はどういう生物が、汚い方はこういう生物が住んでいる**、といった形で載せるのもいい。オオサンショウウオやシャチなどもトピックスとして載せてみるのもおもしろい。

加藤：**まとめると、**

①堀川の環境という切り口で小学生にも理解できるような親しみやすいイメージで作成する。②歴史や、あらましなどの内容は、必要最小限に載せる程度にする。言い換えれば、歴史は少なくして、**環境に特化したパンフ**をつくる！

加藤：その他、どのようなものを載せたらよいでしょうか。意見をお伺いしたい。

兼松・篠田：**写真コンテストをやっている写真を利用したらよい。**

加藤：5班の写真は観光スポットの写真なので、あらましの更新時に使いたい、と思っている。環境用パンフレットには既存の資料を用いていいので、皆さんはどのようなものを載せたいかということ聞かせて欲しい

及川：名古屋市が調査したデータというのは、公表しているのですか？

加藤：清流ルネッサンスのときに利用していたりするが、一般公開はしていない。でも非公開ということではない。

(具体的作業について)

徳永：**加藤さんにたたき台を作って頂き、それを次回提示してもらって、皆で検討していく形がいいのではないか**と思う。→加藤氏及び全員了解

和久：**随時アイデアがあれば提案してもらいたい**。ただし、提案したアイデアが採用されなくても文句は言わないというルールにしたい。

和久：今まででたアイデアは次の通りである。

①**漫画**で表現する。

②例えば、先生が出てきて質問する形式のパンフレットでもよいのでは？

③パンフレット作成者に、**このメンバーの名前を載せる(加藤さんの案)**。例えば、漫画を書

く人や、これは俺がとった写真だ！みたいな感じです。

④鳥や魚がよく見える**観察ポイント**なども掲載する。

徳永：野鳥の会の会員で**間下さん***という方が疑似餌でカワセミなどを呼び寄せたりすることが出来る。しょっちゅう川沿いを移動していて魚の死骸を見ていたりする。協力を頼んでもいい。

※ 間下さん：「堀川のあらし」のカワセミの写真を提供してくれた方。

⑤**書き込めるようなスペース**を設けてもおもしろい。

⑥**散策路を紹介する**ようなものもいいのではないかとおもう。

その他、**おもしろいアイデアがあれば和久宛、送って頂きたい。**

及川：①**水辺に下りられる場所などもマップに載せてくれたらありがたい。**港区に住んでいるものとしては、こういう情報に非常に興味がある。上流部で川に入るにはどこで許可が得られるのでしょうか。堀川で川に入れるというのは、とてもアピールできるポイントだと思う。しかし、鍵がかかっていて、簡単には入れない。どのような手続きをすれば、川に入れるかということに記載したらよい。

②**葦原はどうするのか？**具体的にマットを敷いて広げていくのでしょうか。

もし今後やっていく見通しがあるならそれもパンフレットに載せていけると思う。

加藤：**表紙の写真も募集**（もちろん環境という観点から）したい。

徳永：行政の人間は難しく書きたがるので、**学生がそれを軟らかい表現にかみ砕いていただきたい。**

4. 次回予定

①日時：**10月28日(土)2時~4時。**（佐伯さんは欠席予定）

②場所：名古屋工業大学 24号館116号室

③議題：パンフレット素案についての討議。

以上（文責：和久昭正）